

令和4年度第2回神奈川県聴覚障がい児早期支援体制整備検討協議会

資料1 聴覚障がい児支援中核機能モデル事業の実施状況に
ついて

令和5年3月15日
神奈川県福祉子どもみらい局
障害福祉課

令和4年度聴覚障害児支援中核機能モデル事業実施状況

1 聴覚障害児に対応する協議会の設置

○神奈川県聴覚障がい児早期支援体制整備検討協議会の設置

○協議会の開催（第1回 11月15日、第2回 3月15日）

2 中核機能の設置

（1）中核機能設置、周知等

○12月21日委託契約締結

（委託先：社会福祉法人神奈川聴覚障害者総合福祉協会）

○1月に専門相談員2名雇用（常勤1：非常勤1）

・常勤1（聴覚障がい児2人の母、手話通訳士、保育士）

・非常勤1（難聴当事者、補聴器使用）

2月に言語聴覚士非常勤1名雇用（難聴児の支援に長年従事）

○チラシの作成・配布等（3月）

・チラシ配布：県所管域市町村母子保健・療育相談・障害福祉所管課

- ： 新生児聴覚検査精密検査実施医療機関、二次検査実施医療機関（横浜市、川崎市所在の医療機関を除く）
 - ※ 県立こども医療センターは配布
 - ： 平塚ろう学校、相模原中央支援学校、横須賀市立ろう学校
 - ： 県総合療育相談センター、児童相談所（県所管域）
 - ・ メールによる周知： 保育所（県所管域・横須賀市）
県次世代育成課→各市町村保育所管課へ周知依頼
 - ・ 障害福祉情報サービスかながわサイト掲載及びメール配信
： 障害児相談支援・通所サービス事業所（県所管域・横須賀市）
- ※ 今回の周知先に入っていない機関については、来年度に周知を検討。

（2）聴覚障害児支援の関係機関との連携

- 藤沢市（モデル地区）、平塚ろう学校との情報交換・打合せ会議(12月)
藤沢市健康づくり課（母子保健）、子ども家庭課（療育相談）、保育課（保育園）、平塚ろう学校、県聴覚障害者福祉センター、県障害福祉課
- ・ 管内の聴覚障がい乳幼児の状況について情報共有
- ・ 3歳半健診では聴覚検査が入っているが、1歳半健診では入っていないので健診では見つけられない。
- ・ 1歳半健診で地区担当が聞こえの悪い子を把握しているが、お母さんが

- らの情報しかないため、全数が分かるというわけではない。
- 1歳半から3歳半健診の間で期間が空くため、途中で聞こえなくなった子の把握は難しい。
 - 保育園や幼稚園で、片耳難聴の子などはその場その場をやり過ぎていて、周りも気づけない。
⇒新生児聴覚検査等で把握できなかった「埋もれている子」の把握が課題であることを共有。
 - 中核機能事業の「家族教室」と「しゅわまる」や聴覚障害者福祉センターの「乳幼児支援」との住み分け（藤沢市内が会場のものが多い）
⇒県西地区など資源の少ない場所での実施の検討
 - 平塚ろう学校の乳幼児相談もかなり手一杯の状況。平ろう、相模原中央支援学校、横須賀市立ろう学校、聴覚障害者福祉センターの中核機能と役割分担して支援を行えたらよい。
 - 中核機能モデル事業の実施に関して打合せ（周知や研修内容について）

○相模原中央支援学校、相模原市との情報交換会（2月）

相模原市高齢・障害者支援課、陽光園療育相談室、子ども家庭課、保育課、中央子育て支援センター（療育相談班 ST）、相模原市中央支援学校、県聴覚障害者福祉センター、県障害福祉課

- 管内の聴覚障がい乳幼児の状況について情報共有
- 東京都と接していることから、東京のろう学校（日本聾話学校）や事業所に通う子も相当数いる。
- 聴覚障がい児に特化して家族教室などは実施していない。
- 児童発達支援センターに通う聴覚障がい児は重複障がいを持つ子が多く、もう1つの障がいに重点を置いた支援になってしまう。
- 聴覚障がい児の数が少ないため、市の子育て支援センターや市内の児童発達支援センターのS Tが聴覚障がい児への支援について経験を積んで、知識や技術を習得するのが難しい。
- 相模原中央支援学校は、相模原市、座間市、大和市、愛川町が学区となる。ろう学校ではないので聴能の先生がいない等、体制がろう学校とスケールが違う。
- 特別支援学校のセンター的機能の巡回支援は、保育園からオファアがあるが幼稚園からは無い。4歳～5歳の聴覚障がい児に関して多く、周りがことばを話すようになってきて、聴覚障がいの子の発言が聞き取れない、関わり方が分からないと支援の依頼がある。
- 聴覚障害者福祉センターでは、乳幼児期だけでなく、学齡児、成人の聴覚障害者とも関わりを持っており、ある程度の年齢になって周りとの違いに戸惑いを感じたり、大人になって「どんなに自分が聞こえていなか

ったか」気付く方がいるのを見ていると、「どの時点でどのような支援を受けられたらよかったのか、支援をしていくべきなのか」と、遡って考えていく必要があると思う。

- ・保護者の方は、聴覚障がいの診断を受けた時にそれがどういうことなのか分からないので、まず知ってもらわないといけない。特に軽・中度のお子さんの場合に「補聴器を付ければいい」となりやすい。そうではないことを理解してもらうのに時間がかかるが、そこをしていかないと子どもの発達をきちんと保障して行くことができない。保護者の気持ちを受け止めながら支援をしていくことが重要。

○東海大学医学部附属病院耳鼻咽喉科へ訪問・取組の説明（3月）

○県立こども医療センター言語聴覚科へ訪問・取組の説明（3月）

○小田原市立病院耳鼻咽喉科へ訪問・取組の説明（3月）

- ・平塚ろう学校や聴覚障害者福祉センターへ紹介したケースの状況を情報共有したい。定期的な意見交換・情報共有の場があるとよい。

○小田原市健康づくり課、子ども青少年支援課、障害福祉課との情報交換会（3月）

- 横須賀市立ろう学校との情報交換会（3月予定）
- 横須賀市療育相談センターとの情報交換会（3月予定）

（3）家族支援の実施

○相談支援 1月～2月実績 116 件（実人数 37人）

○家族教室の開催（2月22日）

【申込者】22人 【参加者】14人（7家族）

【内容】保護者間での悩みや課題等の交流。聴覚障がい児を育てた保護者の体験談、親子の触れ合い体験等

- ・講師2名（先輩保護者）の体験談
- ・情報交換と交流（補聴器の装用について、保育園入園、障害受容について等、講師や参加者と情報交換）

【参加者の声】

- ・同年代の聴覚障がいの子どもを持つ親御さんに会い、いろいろな話が聞けて良かった。
- ・同じことで悩んでいるとわかり、安心した。
- ・先輩ママたちの話、進路の話が参考になった。

- ・子どもにとっては今の聞こえが普通で当たり前なので、ありのままを受け止めていきたい。
- ・ぜひ月1回開催してほしい。交流の場になれば心強く、こどもたちも仲良くなり、来るのが楽しみになると思う。

(4) 巡回支援の実施

○藤沢市内の児童発達支援センター2カ所(ふれっじ、太陽の家)を訪問予定(3月)

- ・中核機能事業紹介及び聴覚障がい児の療育等についての説明。

(5) 聴覚障害児の支援方法に係る研修の実施

○「聴覚障がい児早期発見・早期支援のための研修会」の実施(3月8日)

【対象】保育所、幼稚園、認定こども園及び児童発達支援センター、児童発達支援事業所の職員

※藤沢市と平塚ろう学校との打ち合わせ会議で、新生児聴覚検査等で見つけられなかった「埋もれている子」の把握が課題に挙がり、保育園・幼稚園等の職員の方に「聴覚障がい児」のことを知ってもらう研修をまず行うことになった。

※(1)の中核機能周知と合わせて周知を実施

【申込者】 38人（うちオンライン36人）

【受講者】 30人（うちオンライン29人）

内訳：保育園 11人 幼稚園 1人 児童発達支援事業所 7人
その他 11人

（認定こども園 1人、企業主導型保育施設 1人、家庭的
保育事業所 2、放デイ 5、特別支援学校 1、不明 1）

【内容】 ◆聴覚障がいの基礎的な知識、療育、保護者支援の必要性、接し方
等についての講演

「早期発見と早期支援および保護者支援」

講師 南村 洋子 氏

（東京都立大塚ろう学校講師、全国早期支援研究協議会 会長）

◆聴覚障がい児支援中核機能事業の紹介並びに県聴覚障害者福祉セ
ンター、県立平塚ろう学校での聴覚障がい乳幼児支援についての
紹介

【受講者アンケートより】 回答数 14（R5.3.9 時点）

◆聴覚障がい児・聞こえに心配がある子が いる 7 いない 7

- ・ 回答 7 施設で 10 名の聴覚障がい児
- ◆ 研修は役立つ内容だったか 役に立つ 14

〔いる施設の回答〕

- ◆ 困っていることや知りたいこと
 - ・ 活動に参加してもらおうときにどう説明したら良いかわからない
 - ・ マスク生活での関わり方 (2 件)
 - ・ 英語のリスニング機器で聞いた後真似して発音するが、同じようには言えない。
 - ・ 就学の対応 (5 歳児)
 - ・ 特に困っていることはない (0 歳児、1 歳児、軽度難聴児)
- ◆ 巡回支援や研修等の希望
 - ぜひ利用したい 4 内容によっては利用したい 2 希望しない 1

〔いない施設の回答〕

- ◆ 支援方法等について
 - 全くわからない 4 経験がある 1 ある程度知っているが不安 1
- ◆ 巡回支援や研修等の希望
 - ぜひ利用したい 3 内容によっては利用したい 4

(感想・希望する研修内容等)

- ・聴覚障害について見方がかわった。
- ・なるほどとわかることばかり。支援の仕方や子供への対応も考えさせられた。
- ・聴覚障害を理解していたつもりでいたが、実際に聴覚障害にふれたことのあるひとの話は大変貴重であった。今回の話を職員と共有したい。
- ・聴覚障害のある児童に対して、よりわかりやすい対応をしていけると思った。聞こえに関して初めて知ることも多かった。
- ・聴覚障害に絞っての講演は初めてだったがよかった。
- ・南村先生の体験に基づいた話しがわかりやすかった。
- ・聴覚障害について知らないことが多く、大変さがわかってきた。
- ・通常の保育園や幼稚園で聴覚障がい児を受け入れるにあたって具体的な関わり方をもっと学びたいと思ったので、そのような内容の研修があれば是非参加したい。
- ・ろう学校や聴覚障害者福祉センターなど、どのような活動をしているのか知りたい。
- ・子どもに伝えるときに分かりやすい手話も教えてもらえると嬉しい。

★藤沢市には、上記（３）（５）の実施について関係者への周知に御協力
いただいた。

- ・（３）の家族教室 参加 7 家族中 5 家族が藤沢市在住
- ・（５）の研修 30 人中 12 人が藤沢市の施設・事業所

3 その他

○保育園や幼稚園の聴覚障がい児の把握について

保育園や幼稚園の通園者の数など、「障がい児」の数としてはあっても障がいの種別ごとに出しているものがない。

⇒まずは、保育園や幼稚園、障がい児通所サービス事業所等の職員への聴覚障がい児支援に関する啓発や支援の取組を進め、状況の把握を行っていききたい。